

◇ 生命を守る家！ ◇

家づくりに求めるものは、人それぞれが異なります。安らぎ、寛ぎ。癒し、楽しみ、などがありそうです。

「家とは本来なんのためにあるのだろうか」本来、家は雨露をしのげる場所であり、外敵から命を守る場所だったと考えます。

マズローの欲求の五段階説ではありませんが、生理的欲求⇒安全欲求⇒社会的欲求⇒承認欲求⇒自己実現欲求の段階があると言われています。

安全の欲求である、外敵から命を守るという目的が満たされると、財産を守るという役割に変化して行きます。

雨露をしのぎ、外敵から身を守り、生命を守り、財産を守るというのが本来の役割なのです。

昨今のように頻発する地震や台風による家の倒壊などから、命と財産を守る本来の機能が果たされていない住宅は、いまだに多いのが現実です。

最近では、温暖化による異常気象で、家の中での熱中症やヒートショックによる夏場・冬場の室内での事故など、命を守るという目的が達成されていない家づくりが多いのも現実です。

建築基準法を守り、家の温熱環境も最低基準であればとの一見正しそうに見える家づくりです。しかし温熱性能も命を守るという基本的な役割にはおおいに肝心な家の機能です。本来の生命を守るという役割・機能を満たしていない、家づくりは、お施主さま自身が意識を持つべきでしょう。

◇ 空気のクオリティ ◇

空気汚染、火山灰、花粉、カビ、ハウスダスト、PM2.5、たばこの煙など目に見えない汚染空気を長期間、吸っていると呼吸器がダメージを受けます。

ここ30年～50年の間に家が高气密化されるようになりましたが、気密性能が向上するほど、隙間からの空気の出入りが減少し、室内空気が住む人の影響で汚染されます。新築、リフォームなどをした後、頭痛、めまい、咳、目が痛いなどは、新建材から発する物質での「シックハウス症候群」です。

住宅の気密化、化学物質を多用する製法、工法の普及、化学物質を含む生活用品の増加に伴い、2003年7月に建築基準法に基づく、『シックハウス法』が制定され、それまで規制のなかった13の化学物質がリストへ挙げられ、初めて使用制限されるようになりました。

しかし、使用量が制限されたのは、その中の[ホルムアルデヒドとクロロピリホス]の2種類だけです。

他の11の化学物質に関しては、指針値が示されただけです。シックハウスはアメリカやデンマークで1970年代のオイルショックの時期に、省エネが推奨され、ビルなどで室内の換気量（換気をすれば暖房冷房も効かなくなる）を大幅に減らした結果、ビル内の人が体調不良になるという現象が起き、室内空気と健康障害についての調査を開始したときに使われた言葉が「シックビルディング症候群」からきた名称です。

ひと昔前は、隙間の多い家に住んでいましたので、隙間からの自然換気が行われ、空気汚染を気にかける必要がありませんでした。

住宅の気密化が進み室内の空気が汚れ、健康被害がでているのです。食べることはある程度我慢できても、呼吸をしない、呼吸を止めることはできません。

とても大切な空気ですが、建築基準法を守ればよいというぐらいの感覚で、空気の質の問題を置き去りにしている可能性があります。

最近では、PM2.5等の外気の空気にも気遣いが必要です。私達家づくりを行うモノは、人の命を守る大切な場所であるという視点に立ち返り、医者のように人の命を預かる人の命を守る仕事をしているのだと自覚が必要です。

◇ 家は性能も大事ですが動線も大事です。 ◇

家は温熱性能も大切ですが、住み心地の良い、間取りや使い勝手や動きやすい生活動線は多いに吟味する必要があります。

最近では、水廻り関係の場所に距離を短くすることで、子供への配慮や料理、洗濯、お風呂など、より気持ちよく、快適に、家族全員が動ける動線をどの部屋をどのように通過する必要があるかをしめすものです。

家事動線は、短いほど忙しい主婦がスムーズで無駄のない家事が出来ます。例えば、家族の日々の暮らしを支える、炊事や洗濯や掃除といった家事をおこなうために必要な動線が「家事動線」です。

特にプランニングをするときに心がけているのがこの動線です。年齢・子育て・立地環境・仕事・趣味などを考慮して間取り、プランを考えていきます。

どんな設備機器が良いのか、どんな広さが良いかも必要ですが、誰と何処でどんな生活をしたいのかを吟味して、生活動線が短くなるよう提案します。

住み心地の満足度は、人によってちがいますが、設備や仕様や間取りは、動線がもっとも肝心であると思われれます。

家づくりは、住んでから使い勝手が良くないではなく、動線を意識して設計することにより、住まいの使い勝手・満足度が充実します。

住んでからの住み心地の良さは外観に凝った家より充実度を高くします。

(著：ハウジング事業部 北村真奈美)